

神戸市立雲雀丘中学校 学年(チーム)担任制

～あの子ども この子ども 雲雀丘中の子ども～
～一人一人を大切にすることを教育を目指して～

本校では、「～あの子どもこの子ども雲雀丘中の子ども～」を合言葉に「～一人一人を大切にすることを教育～」の実現を目指すために学年（チーム）担任制を取り入れています。

学年(チーム)担任制！

- 令和5年度～ 神戸市教育委員会 指定
- 学年(チーム)担任制 モデル実施校

複数の教員が**チーム**になり
一人ひとりの子どもを
指導・サポートする新しい学校体制
それが「**学年(チーム)担任制**」



つまり、この全員が
全クラスの担任の先生！

令和5年度に、神戸市教育委員会から「学年(チーム)担任制」のモデル実施校の指定を受け、2年目を迎えました。

学級担任を固定する形から、複数の教員で一人一人の子どもを指導・サポートする学年(チーム)担任制を導入し、今年度は全学年で取り組んでいます。

ある週の学年担任制・担任の役割

1-1担任(T1)



1-2担任(T2)



<担任の役割>

朝と帰りのST
学級活動
昼食
道徳科
総合 など

★一定期間(1~2週間)で
担任が交代します

連携

両クラスを
サポート

学年主任(T3)



サポート(T4)



サポート(T5)



学級担任を担当する教員の仕事は、今までと変わりませんが、おおむね1週間で担任業務を交代します。

学級担任担当しない週は、それぞれのクラスや学年全体のサポートを行います。

次の週は担任が入れ替わります。

1-1担任(T5)



1-2担任(T4)



<担任の役割>

朝と帰りのST
学級活動
昼食
道徳科
総合 など

★一定期間(1~2週間)で
担任が交代します

連携

両クラスを
サポート

サポート(T1)



学年主任(T3)

サポート(T2)



原則としてサポートした学級の翌週に学級担任を受け持ち、生徒や学級の様子の把握に努めます。

前週の担任は、サポートに回り、切れ目なく生徒の支援を行います。

【モデルケース】学年教員5名の場合

	 A先生(T1)	 B先生(T2)	 C先生(T3)	 D先生(T4)	 E先生(T5)
1週目	1組担任	1組サポート	2組担任	2組サポート	全体サポート
2週目	全体サポート	1組担任	1組サポート	2組担任	2組サポート
3週目	2組サポート	全体サポート	1組担任	1組サポート	2組担任
4週目	2組担任	2組サポート	全体サポート	1組担任	1組サポート
5週目	1組サポート	2組担任	2組サポート	全体サポート	1組担任

これは、2クラスを1週間単位で交代した場合のモデルケースを例示したものです。
 ただし、実際には学年の教員数等で変わる場合があります。ご注意ください。

「学年(チーム)担任制」で生徒の自律心を高めます

すでに教育活動の一部は生徒主体＝「自主・自律」を実現

Ex)体育会の種目を生徒が企画・立案

きまり見直しを生徒会中心に実施

今後は、学級・学年のルールづくりも生徒自身で

次に学年（チーム）担任制のねらいについてです。

図にあるように、本校では、今年度までに、学校行事の企画・立案やきまりの見直し等で生徒主体の活動を行っています。

「学年(チーム)担任制」では、自らが所属するコミュニティの当事者として、学級や学年づくりも生徒自身が主体となって取り組むことで、「自主性・自律心」の向上を育みます。

子供を中心に据えた教育活動

各行事・学級運営

先生主体から



生徒主体



自主・自律する力の育成

子供を中心に据えた教育活動の実践を通して、生徒の自主・自律の力を育て、生徒主体の学校づくりを進める。
これが「学年(チーム)担任制」が目指すところです。

「学年(チーム)担任制」で個別最適化を実現

例えば…

担任の先生以外に相談したいけど…

進路や学習に詳しい先生の話が聞きたい…

身体に関することは、異性の担任だと相談しにくい…

いわゆる思春期を迎え、心も身体も大きく変化し、悩みや不安も人それぞれ。だから、相談したい大人だって、一人一人違うはず…
だったら、相談する相手は自分で選びたい！

自分で考え、適切な先生を選択

生徒自身が
場面に応じて
相談する先生を
選べる



多様な価値観を持つ大人との交流

相談したい内容によって先生を選ぶ。
自分の性格に合う相性のいい先生を選ぶ。
いろいろな場面でより最適な先生を選ぶ。
「学年(チーム)担任制」ならそれが可能です。

強みを発揮し、弱みを補完し合う 「学年(チーム)担任制」

教員のそれぞれの得意分野をチームで活かしながらすることができる

教育活動や指導の透明性を高め、開かれた学級・学年・学校づくりを実現

経験の浅い教員等が、ベテラン教員から学び、資質向上が期待できる

すべての教員による学校運営・学級経営への参画意識の向上が期待できる

教員の立場から見ると、チームになれば、お互いの得意を活かしたり、悩みや不安を共有したりできる。

すべてを一人でするよりも、みんなで仕事を分かち合うことで、時間や気持ちにゆとりが生まれる。

ベテランの先生のバックアップがあるから、経験の浅い先生も安心して教育活動に取り組める。

学年（チーム）担任制は組織力を向上させます
それぞれの教員が得意分野で力を発揮し、連携・補完
することによって、組織的教育力の向上につながる



教育力のさらなる向上

個人個人の成長と同時に学年や学校全体の組織としての教育力も向上する。
教員の資質、組織的教育力の向上は、生徒に対する教育の質の向上につながる。

「学年(チーム)担任制」ならそれが可能です。

Q1. 子供のことを相談したいとき、保護者は誰に相談すればいいの？

- **A1.**
- **所属教員全員がローテーションで担任を務めますので、学年教員の誰にでも相談が可能です。**
- **お困りの場合は、翌月の担任割り当て表を学校だよりや学年だよりで、翌週の担任割り当て表を学年だよりや週報でお知らせしますので、その週の担任にご相談ください。**

保護者からの質問で多いのが、「固定担任でなくなったら、誰に子供のことを相談すればいいの」というものです。

学年に所属している教員がローテーションで学級担任を担いますので、学年教員であれば、誰に相談してもらってもかまいません。

相談内容によって、最も適切な教員から回答します。

Q2. 家庭訪問や個別懇談会は誰と面談するの？

A2.

- 家庭訪問や個別懇談会は、あらかじめ担当教員を割り当てます。
- 割当教員との面談終了後、他の教員との面談も可能です。



1組前半



1組後半



2組前半



2組後半

次に多いのが、「家庭訪問や個別懇談は誰とするの？」です。
家庭訪問や個別懇談会は、事前に担当教員を割り当てます。
割り当て教員以外の教員との面談を希望することもできます。
その場合は、事前にご連絡いただければ、調整して対応いたします。

Q3. 担任交代時の生徒情報の引継ぎは？

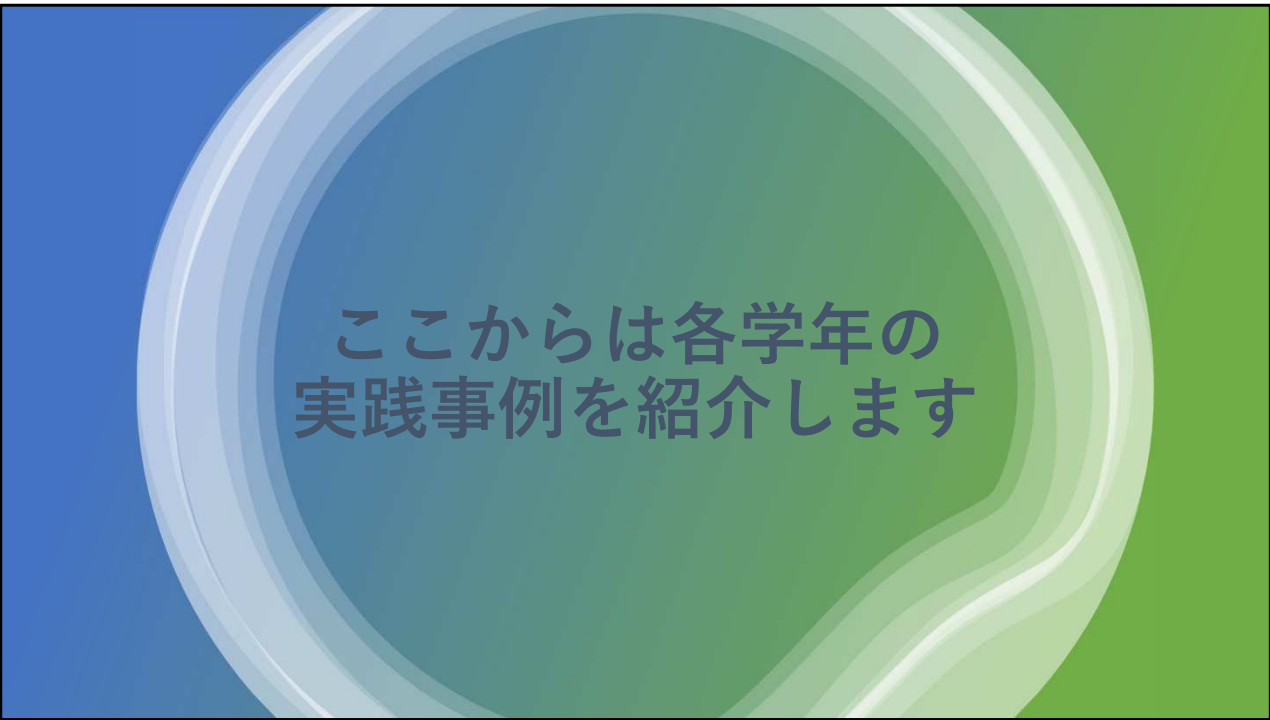
A3.

- **毎日の放課後や週1回の学年打ち合わせ等で情報共有を行います**

一人ひとりの生徒の様子・気持ち・態度・進路など、適宜情報交換を行い、全員で取り組みます



続いて、心配の声が多いのが、生徒情報の引継についてです。
学年（チーム）担任制では、全スタッフが支援に当たりますから、コミュニケーションの充実が求められます。
そのため、どの学年も、毎日放課後に短時間の情報共有の時間を持っています。
また、担任が一定期間（概ね1週間）でローテーションするため、週に1回1時間程度の打ち合わせの時間を設けています。
生徒情報の引継ぎ漏れ等がないように、学年内のコミュニケーションを密に
して対応しています。



ここからは各学年の
実践事例を紹介します

1 年生→2 年生→3 年生の順に紹介します。

57回生(1年生)



～豊かな心を育もう～



1年生では、常勤の教員のほか、非常勤の時間講師の2名の先生がペアとなって、担任業務を行っています。

従来の固定担任制では、非常勤の時間講師の先生が担任業務を行うことは難しいですが、チーム担任にすることで、担任業務が可能になります。

これも「学年（チーム）担任制」ならではの特徴です。

1年生では、概ね1週間で次の教員へバトンタッチしています。



2年生は、保護者や地域も含めて“チーム雲雀丘”の精神で活動しています。

学年チーム担任制
Kくん
Iちゃん
Sさん
Aちゃん
Tくん

学級担任
Sさん
Sさん
Sさん
Sさん
Sさん

学年チーム担任制
Kくん
Aちゃん
Tくん
Iちゃん Sさん

教育相談を行った職員がその学級の個別保護者会を行う。

	教育相談	個別保護者会
1組	Aちゃん	Aちゃん
2組	Kくん	Kくん

	教育相談	個別保護者会
1組	Tくん	Tくん
2組	Iちゃん	Iちゃん

2年生は、個別保護者会は、生徒の教育相談を行った教員がそのままその生徒の個別保護者会を担当し、一貫性を大切にしています。
 学年（チーム）担任制は、左の図のように、すべての教員で均等に業務を負担できるのが理想ですが、実際には右の図のように教員の負担に偏りがでてしまう場合もあります。
 それでも、真ん中の固定担任制と比べると、一人一人の業務負担は軽減され、その分生徒に寄り添い、向き合う時間を確保できます。

第3学年 学年スローガン **つながる ～友・学・夢～**

【課題】→進路相談（個別懇談） ☆ → 教師と生徒保護者との関係

☆生徒一人ひとりが自分の将来と向き合えるようにチームでサポート。

◆3年生は自分の進路を考える機会が増え、悩みも増える。各生徒に一人ずつ、担当の教師（1人）が入り、教育相談や悩み相談に乗りケアを実践する。

☆担当教師と、生徒（保護者）との信頼関係の構築

◆進路決定が関わる個別保護者会については混乱を避けるため、担当の教師（1人）が受け持ち、継続して個別保護者会を実施する。

→ 生徒自身がみずからの目標進路をみつけ、達成に向けて努力できる。（学年教師のサポート必須）

進路指導を行う3年生では、各生徒や保護者との信頼関係を加味して、担当教員を生徒ごとに固定しています。

日常の担任業務は、他学年と同じように、おおむね1週間でローテーションします。

第3学年 学年スローガン つながる ～友・学・夢～



特支担任



教員 A



教員 B



教員 C



教員 D



学校生指担

進路相談
を担当する
生徒の人数

学年の全生徒サポート

2名 (特支生)

13名

13名

16名

14名

→ 学年職員全員で、生徒一人ひとりの相談(懇談)の情報を共有。
生徒のようすを含め、小さなことも教師皆で“つながり”、生徒個別
に合わせたサポートを具体的に話をしている。

3年生では、出席番号で機械的に担任を割り当ててではなく、これまでの関係性を考慮し、個別最適な割り当てを行っています。

これまでの固定担任制では、一人の担任が30～40名の生徒を担当しなければなりませんでした。チーム担任制にすることで、一人当たりの受け持ちは、13～16名となり、その分、一人一人に十分な時間をかけることができます。

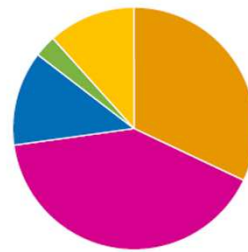
また、各担当者が得た生徒情報は、学年職員全員で共有し、どの生徒に対しても全教員でサポートする体制を整えています。

学年（チーム）担任制 現在地

- 1 学期保護者アンケートより

必須 Q5（保護者として）担任を固定せず、学年がチームとなつて対応することへの安心感がある

回答	回答数
そう思う	33
わりとそう思う	42
あまりそう思わない	13
まったくそう思わない	3
どちらともいえない（わからない）	12



● そう思う: 33 (32.0%)
 ● わりとそう思う: 42 (40.8%)
 ● あまりそう思わない: 13 (12.6%)
 ● まったくそう思わない: 3 (2.9%)
 ● どちらともいえない（わからない）: 12 (11.7%)

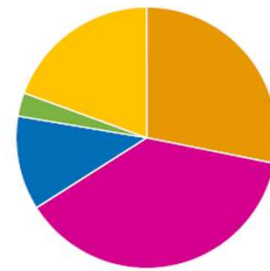
保護者の7割強が、学年（チーム）担任制に安心感があると回答しています。

学年（チーム）担任制 現在地

- 1 学期保護者アンケートより

必須 Q6 担任は固定されないが、（保護者として）相談しやすい教員を見つげられている

回答	回答数
そう思う	29
わりとそう思う	39
あまりそう思わない	12
まったくそう思わない	3
どちらともいえない（わからない）	20



● そう思う：29 (28.2%)
 ● わりとそう思う：39 (37.9%)
 ● あまりそう思わない：12 (11.7%)
 ● まったくそう思わない：3 (2.9%)
 ● どちらともいえない（わからない）：20 (19.4%)

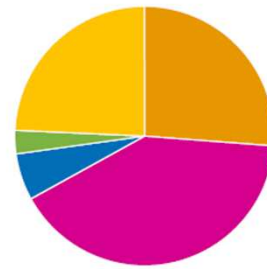
65%程の保護者が、相談しやすい教員がいると回答しています。

学年（チーム）担任制 現在地

- 1 学期保護者アンケートより

必須 Q7 複数の先生が担任としてかわることで、お子様にとって良い効果があったと感じる

回答	回答数
そう思う	27
わりとそう思う	42
あまりそう思わない	6
まったくそう思わない	3
どちらともいえない（わからない）	25



● そう思う: 27 (26.2%)
 ● わりとそう思う: 42 (40.8%)
 ● あまりそう思わない: 6 (5.8%)
 ● まったくそう思わない: 3 (2.9%)
 ● どちらともいえない（わからない）: 25 (24.3%)

保護者の7割強が学年（チーム）担任制は、子どもに良い影響を与えていると回答しています。

最後の
最後に

**「あの子どもこの子ども雲雀丘中の
子」を合言葉に**

**教員だけでなく、保護者の方も地
域の方も、一緒にチームとなって
子どもたち一人ひとりの成長を支
援していきたい…**

**それが「学年(チーム)担任制」の
目的です。**

教員だけでなく、保護者や地域の方たちとも一緒に「チーム雲雀丘」となっ
て、子ども一人一人の成長を支えたい。

「あの子どもこの子ども雲雀丘中の子」を合言葉にどうかお力添えをお願いしま
す。